

平成16年5月25日



平成16年4月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	34,146,586 万円	100.0%	100.1%(101.7%)	32,235,512 万円	95.9%(97.5%)
食 料 品	27,207,057 万円	79.7%(80.0%)	100.6%(102.4%)	25,779,209 万円	96.4%(98.3%)
農 産	3,935,697 万円	11.5%(11.8%)	94.3%(100.9%)	3,731,152 万円	91.6%(96.7%)
水 産	3,231,732 万円	9.5%(10.0%)	96.7%(100.6%)	3,061,693 万円	92.6%(96.3%)
畜 産	2,997,828 万円	8.8%(8.7%)	98.8%(98.6%)	2,833,685 万円	94.4%(94.1%)
惣 菜	2,569,094 万円	7.5%(7.5%)	103.2%(105.1%)	2,422,037 万円	98.3%(99.7%)
日配食品	6,397,754 万円	18.7%(18.6%)	102.5%(102.5%)	6,057,272 万円	97.3%(98.5%)
加工食品	8,074,952 万円	23.6%(23.4%)	103.9%(104.5%)	7,673,370 万円	100.1%(100.9%)
生活関連	2,899,382 万円	8.5%(8.4%)	95.7%(97.5%)	2,752,253 万円	92.4%(93.7%)
衣 料 品	2,043,733 万円	6.0%(5.6%)	96.5%(99.1%)	1,936,492 万円	93.8%(95.5%)
そ の 他	1,996,414 万円	5.8%(5.9%)	104.4%(101.9%)	1,767,558 万円	97.4%(94.5%)

数 値

全店総売上高	34,146,586 万円	店 舗 数	3,341 店舗
総売場面積	5,759,752.5 m ²	総従業員数	167,297 人

店舗平均月商	10,220.5 万円	平均客単価	1,809.9 円
月間m ² 売上(前月)	5.9 万円(5.9 万円)	平均店舗面積	1724.0 m ²
月間坪売上(前月)	19.6 万円(19.6 万円)	パート比率(前月)	73.9%(73.8%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 総額表示への切り替えに関しては各社とも大きな混乱は無かったが、売上において割高感からか、ほとんどの企業が少なからず影響があったとの報告であった
- ・ 1日の中でも、日中と朝晩の気温の差が非常に激しく、売り場の展開に各社苦労している
- ・ 平均気温は平年よりも高く推移したが、土日に雨が多く、気温の変化の激しさと、総額表示の影響も加わり、売上は全般的に厳しい状況となった
- ・ 特に中旬気温が急激に上昇したため、春夏物へのシフトが一気に進んだ

商品動向

農産

- ・ 野菜の相場が安く、単価が伸びず苦戦。点数は昨年を上回るものの、単価が大きく昨を下回る
- ・ 果実においても単価の伸びない状況は変わらず、ともに厳しい状況が続く

水産

- ・ かつおは不漁による相場高により、値ごろ感が出せずに不調に終わる
- ・ あさりは、相場も安定し、品質も良かったため好調に推移した

畜産

- ・ BSE、鳥インフルエンザの影響は徐々に薄れているが、焼肉商材において、アメリカ産の代替品が無いことは各社悩みの種になっている
- ・ 豚肉は先月に続き好調に推移。各社焼肉、行楽需要に向けて売り込んできたことも奏効している

惣菜

- ・ 気温の上昇に伴い、行楽商材、サラダ商材などが好調に動く。しかし鳥インフルエンザの影響もあり、揚げ物は動きが鈍い
- ・ 暑い日が続いたため、夏物商材の麺セットの売上が好調。早期に展開をはじめたところは大きく売上を伸ばした

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、気温の影響からアイス、デザートが良かった。反面こんにゃく、しらたきなどは低調
- ・ 健康ブームにより、黒酢、豆乳が引き続き好調
- ・ たまごは、鳥インフルエンザと相場安の影響により、依然として低調。しかし後半から相場も上昇し、回復傾向にある
- ・ 加工食品は、高温により飲料が全般的に好調。まためん類も全般的に好調に推移した
- ・ 新商品を各社発売しているが、今年はサントリー「伊右衛門」を筆頭に全般的に好調に推移している

その他

～お花見・行楽商戦について

- ・ 一部の地域を除き、全般的に週末の気温も上昇し、売上は概ね堅調に推移した
- ・ BSE、鳥インフルエンザの影響から、焼肉、焼き鳥は低調。しかし、ホタテ、イカなどの水産のバーベキュー商材が好調に動いた
- ・ 天候・気温に加え、酒販店舗の拡大の影響が大きく、酒類が大きく売上を伸ばした、焼酎は引き続き2桁の伸びを見せている
- ・ 花見需要の4月初旬が、ちょうど消費税の総額表示への移行と重なったため、点数において影響があったのでは、という声も聞かれる

～ゴールデンウィークの売上動向について

- ・ 昨年に比べ、曜日回りも天候も良かったため、特に前半においては全般的に好調に推移した。特に水産部門のバーベキュー商材が好調
- ・ 前半は好天が続き、行楽商材が好調。単価・点数ともに全般的に昨年を上回った
- ・ 鳥インフルエンザの影響により、焼き鳥、から揚げなどの鶏肉関係は低調。しかし、牛肉は、国産牛の拡充により昨年を上回った企業もある
- ・ 後半は天候が崩れたところが多く、売れる商品もベーシックなものにシフトした。それに伴い点数・単価も下落した

～消費税の総額表示後の売上動向について

- ・ 総額表示移行後の売上動向に関しては、ほとんどの企業が、売上に影響を及ぼしたと回答している
- ・ 具体的な売上への影響としては平均2～3%のダウンとなっているが、5%以上の影響がでているところもある
- ・ 点数は昨比95～98%で推移しているが、価格政策の影響からか、単価が94～98%で推移し、平均でも点数よりも1%ほど低くなっている
- ・ 単純に消費税を上乗せした価格設定では、割高感から売上に影響がでている。そのため主力商品に関しては、実質値下げして値ごろ感を維持しているところが大半となっている
- ・ 大手を中心に、主力商品などにおいて価格を据え置いたところが多く、結果として追従せざるを得ない状況となっている